

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-287071

(43)公開日 平成5年(1993)11月2日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
C 0 8 G 65/32	NQ J	9167-4J		

審査請求 未請求 請求項の数5(全 12 頁)

<p>(21)出願番号 特願平4-89330</p> <p>(22)出願日 平成4年(1992)3月16日</p>	<p>(71)出願人 591002658 テキサコ・デベロップメント・コーポレーション TEXACO DEVELOPMENT CORPORATION アメリカ合衆国10650ニューヨーク州・ホワイトブレインズ・ウエストチェスタアヴェニュー・2000</p> <p>(72)発明者 マイケル・カスカリダ アメリカ合衆国、テキサス 78731、オースチン、スート 1056、グレイストーン 3543</p> <p>(74)代理人 弁理士 津国 肇 (外2名)</p> <p style="text-align: right;">最終頁に続く</p>
---	--

(54)【発明の名称】 液状で水溶性のポリオキシアルキレンポリアミンの製造方法

(57)【要約】

【構成】 オキシエチレン基を含有し、2～4個のヒドロキシル基と200～1,000の平均分子量を有する多価アルコールを含む開始剤から、(a)、(b)の2段階の反応を経て先駆体ポリオールを得、これを接触還元アミノ化して、液体で水溶性の、1,000～8,000の平均分子量と2～4の官能性を有するポリ(オキシエチレン/オキシプロピレン)ポリアミンを製造する。

(a) 開始剤に、エチレンオキシドの全量と、15～25重量%のプロピレンオキシドを反応させて、中間体ポリオールを得る。

(b) 中間体ポリオールに残余のプロピレンオキシドを反応させて、先駆体ポリオールを得る。

【効果】 先駆体ポリオール及び目的物ポリアミンが、高分子量で水溶性であるにもかかわらず、常態で液体である。